



札幌大学孔子学院
062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1

道民カレッジ連携講座

〔演題、講演要旨、講師紹介〕 孔子学院連続講座～現代中国の経済と社会を知る～

第1回 平成29年6月30日(金)16:30～

演題 : 中国の経済発展と格差問題

講師 : 嚴善平^{げんぜんへい} Yan Shanping 氏

(同志社大学大学院教授)



講演要旨 :

中国の経済規模(国内総生産 GDP)は、改革開放以来の40年近くで30倍も膨らみ、世界経済に占める割合は1978年の1.8%から2015年の14.9%に上がった(IMF)。近年、中国の経済成長は減速しているものの、依然として6.5%という主要国の中でもトップクラスの水準を保持している。予想外の災厄がない限り、10後には、中国はアメリカを追い抜き世界一の経済大国になるだろうと見られている。一方、1人当たりGDPは2015年に8000米ドル余りと米国の1/7、日本の1/4にすぎず、世界188カ国の第76番に留まる(IMF)。高度成長の陰に環境汚染、権力腐敗、経済格差など多くの問題も発生し、中には社会の安定、持続的経済成長を脅かす要素も含まれる。経済力が増大し国際社会への影響が格段に増大しているにも関わらず、周辺国・地域との関係が必ずしも良いとは言い難い状況にある。中所得国から先進国への移行を果たすため、中国は山積の難題難問を克服していかなければならないのである。

本講座の前半では、中国が成し遂げた経済成長の実績を統計データに基づいて説明し、高度成長がなぜ実現できたかを経済学の考えを援用して分析し、戦後の日本経済が経験した高度成長のメカニズムが中国経済の中にも存在するという結論を引き出す。日本経済の成長過程を踏まえ中国経済の可能性を展望する。後半では、中国社会に横たわる様々な格差(収入、資産、教育、社会保障など)にフォーカスし、それぞれの姿と発生要因を現地調査の一次情報を交えながら解説する。格差是正への取り組み、およびその効果や限界についても紹介し分析する。最後に、中国は全体としての経済的豊かさを追求しつつ、より公平で平等な市民社会を構築し、国際社会、なかでも、日本をはじめとする隣国とのより一層の調和・共存共栄を実現していく上で何をなすべきかを考える。

講師略歴 :

中国安徽省生まれ、京都大学大学院博士課程修了、桃山学院大学経済学部教授を経て2011年より現職。中国経済経営学会会長、アジア政経学会理事、日本現代中国学会常任理事、『中国経済研究』・『現代中国』編集委員長などを歴任。日本農学進歩賞・大平正芳記念賞などを受賞。近著に『2020年に挑む中国——超大国のゆくえ』(共編著)、『二重の罍を超えて進む中国型資本主義』(共著)、『中国農民工の調査研究——上海市・珠江デルタにおける農民工の就業・賃金・暮らし』、『農村から都市へ——1億3000万人の農民大移動』など多数。